

銘傳大學を訪ねて

小 島 崇 弘

専修大学経営研究所台湾企業調査団は平成 18 年 3 月 12 日-15 日にかけて台北市内及び近辺の調査を行い、中でも中正国際空港に程近い桃園県龜山郷徳明路 5 号にキャンパスを有する（本部は台北市中山北路五段 250 号）銘傳大學を訪ねて暖かい歓迎と本学生田校舎の IT 設備と比べかなりのショックを受けた事例を報告する。

われわれは小雨の降る中を午前 9 時過ぎに銘傳大學に到着したところ、日本語専攻の女子学生（院生）がそれぞれわれわれ 9 名を各人 1 人づつ傘を持って出迎えてくれたのには驚いた。図書館ビル Q 501 室に案内され、王 金龍博士（学部長 コンピュータ・ネットワークセンター所長）、林 長河博士（大学院応用日本語科副教授）、徐 哲文博士（桃園校区行政所長）、呂 有子博士（情報・通信学部教授）等が出席され写真のように歓迎の挨拶があり、専修大学加藤茂夫団長から



歓迎の挨拶をうける加藤団長

お礼の挨拶がなされ、日本語版 DVD による銘傳大學の紹介の後、質疑応答がおこなわれた。

ここで、後日送っていただいた DVD に基づき銘傳大學を簡単に紹介する。

銘傳大學の掲げる同大学のスローガンは「穩健成長」「追求卓越」で、(high-technology), (high-sensitivity), (high-academic) のもとに実務教育重視・道徳教育重視・人材育成重視を目標としているとのことである。

特に教育のインフラとしてはインターネット・カリキュラムを導入し、学習環境を整備し遠隔教育を行っている。キャンパス内にはマルチメディア教室や中央制御室等を備え、下記のような学外とも情報ネットワークで結ばれ、成績証明書発行等の学内事務も電子化され、学生生活を快適に出来るよう配慮されている。



銘傳大學の情報ネットワーク

銘傳大學は創設から半世紀以上経過しており台北キャンパス、桃園キャンパス、金門キャンパスからなっており、われわれは台北からバスで1時間ほどにある桃園キャンパスを訪問した。飛行場に近い桃園県の山岳を整地して作られた広々としたキャンパスである。

銘傳大學の本部は台北キャンパスにあり、金門キャンパスは大陸に隣接した金門島にあり、同島に駐留する台湾の軍人たちも学生として学んでいるようで

ある。



桃園キャンパス

桃園キャンパスには、国際貿易、情報管理、マスコミ、観光等の学科があり、特に情報管理学科のIT設備には決して最新ではないが、本学にない日本製の設備を有しておりいくつかの写真を紹介する。

また、観光学部はキャンパス内にホテルを備え、学生がホテル業務を実習することが可能で、またわれわれも求めれば宿泊することが出来るということであった。





1枚目でスタジオに立った岡田和秀教授等が2枚目では気象衛星の写真の中に立っている様子がモニターテレビに映し出されている，これを照らしている証明設備が3枚目である。



同じく、スタジオに立った2人がいつの間にかモニターの中では気球に乗ってしまっている様子がよくわかる。

この後われわれは、観光学科の建物を訪ね、同学科の実習設備であるホテルを訪問しフロントで学生さんたちの出迎えを受けました。



このホテルは実際に宿泊することが可能で、日本間も用意されていた。
このあとは、歓迎式典の行われた会場に戻り昼食をいただいた。



上の2枚のうち最初の写真は日本からの訪問者で、一番手前の女性はガイドの蘇 桂芳さん、下の写真は王 金龍博士（学部長，コンピュータ・ネットワークセンター所長），林 長河博士（大学院応用日本語科副教授），徐 哲文博士（桃園校区行政所長），呂 有子博士（情報・通信学部教授）等である。